

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 2月 15日

事業所名 児童デイサービス わくわく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
3	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		5	・パーテーションや安静室、テラスの利用	・パーテーションや安静室をうまく利用し、落ち着いて過ごせる環境設定を児童にあわせてそれぞれが考える。 ・体育館もあるため、状況に応じて分散させる。
	2	職員の配置数は適切である		3	2 奇数週の土曜日の閉所	・職員数に余裕はないため、もう1人~2人非常勤職員は必要。 ・職員が減るため、新たに入らないと厳しい。 ・パートやアルバイトが必要
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		5	・室内は段差がない	・段差がないため、車いすも使用可能である。 ・トイレも車いすが対応可能である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		5	・会議の中で取り上げている	・PDCAサイクルについて、再度共有する機会が必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		5	・毎年アンケートを行っている	・保護者の意向を把握し、改善につなげていくために、職員の意識を改善することも必要。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		5	・ホームページに公開している	・ホームページに掲載。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		2	3 法人内のサービス向上委員会に参加	・サービス向上委員会での意見も参考にしながら、業務の改善につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		5	・研修は自主的に参加(自身が受けたいものをする)ことによって、研修を意味のあるものにする	・研修については、他の職員にもフィードバックするようにしている。 ・研修の機会があっても、勤務時間で行くことが難しい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		4	1	・支援計画はみんなで考えて、意見を出し合うようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		5		・SM社会生活やヴァインランドはある。 ・標準化されたアセスメントツールはあるが、使いこなせてはいない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		5	・会議の中で話し合うようにしている	・職員が意見を出し合うことで考えていく。 ・児童の意見を聞いて反映している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		4	1 会議の中で話し合うようにしている	・子どものやりたいことをしていることが多く、職員からの提案が少ない。 ・それぞれに考えていることはあるが、それが発信できておらず、共有ができていない。 ・職員側の意識改善が必要。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		1	4 会議の中で話し合うようにしている	・細かな設定はできていない。 ・職員からの提案が少ない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		5	・会議の中で話し合うようにしている	・子どもの状況に応じて、臨機応変に変更している。 ・引き継ぎで話し合ったことがどれだけ現場で実践できているのか、振り返りを都度することは必要。 ・支援計画をもとに、職員が実践に反映できているかが課題。 ・職員一人ひとりのスキルアップが必要。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		5	・毎日引き継ぎを行っている	・伝えないといけないこと、共有しないといけないことの認識のズレがある。 ・ホワイトボードを活用して、その日の動きがわかるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		5	・毎日引き継ぎを行っている	・気づきも職員によって差があるため、気づいている職員が発信することで全体で共有できるようにすることが必要。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		5	・引き継ぎで出たことや伝えることが抜けないように、簡単に記入しておくことで大切なことは共有できるようにしている	・記録も職員によって差があるため、意識改善が必要。 ・内容にも差があるため、意識改善が必要。 ・「記録を書く時間」として時間を取ることも必要。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		5	・保護者から相談を受けることで、課題や支援の見直しをその都度行う	・コロナの影響もあり、定期的には実施できていない。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		4	1 ガイドラインはファイリングしていつでも見られるようにしている	・ガイドラインの再確認や重要事項についての確認をする機会が必要。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		・コロナの影響でできていない。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		・送迎時に下校時間や子どもの様子については、確認を行っている	・職員から子どもの様子を確認し(必要な時には詳細も聞きながら)、学校の先生とのコミュニケーションをとっていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5		・受け入れる際には保護者や主治医との情報共有を行いながら、体制を整える	・医療的ケアが必要な子どもはいないが、受け入れる際には整える。 ・受け入れるとなれば、ケアにあたる専門的職員や職員のスキルアップが必要。 ・知識を得るための研修の参加等も必要。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		5	・受けるとなれば、情報共有を行い、少しでも安心できるようにサポートをしていきたい	・該当者がいない。 ・今後、対処となる子どもがいる場合には取り組む。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5		・引継ぎがスムーズに行えるように資料を作成	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		・研修を受けれてはいないが、必要性を感じる。 ・機会があれば検討していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2		・公園で地域の子どもたちと遊ぶことはあるが、交流・活動と言えるものではない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5		・区の子ども支援部会に参加している	・支援部会の内容は職員間で共有を行っている。 ・意見や提案があれば出しあい、部会にあげる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・連絡ノートやLINEの活用 ・送迎時に伝える	・送迎時の保護者とのやりとりを大切にしている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2		・実際に行えていない。 ・連絡ノートやLINEでのやりとり。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・丁寧な説明を心掛けている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・その都度、職員間で話し合いを行い、できることに取り組んでいる	・相談を受けた際には、職員間でも話し合せて意見を出し合い、できることを取り組んでいく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		・コロナの影響でできていない	・保護者と一緒になって考えていけるように機会をつくってきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2	・職員間で話し合い、謝罪や改善策を提示する	・職員間での話し合いを行いながら、迅速に行えるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・月1回、会報を発行している	
	35	個人情報に十分注意している	5		・鍵付きのロッカーを使用している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		・絵カードや写真など、視覚的にわかりやすいものを使用している	・職員間でも話し合いをしながら、子どもにあったものを考えていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		・博愛社フェスティバルはあるが、今年度は規模縮小での開催であり、地域の人は招待していない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	・防災委員会への参加	・マニュアルとして作成できていないものもあり、作成する必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・防災委員会への参加	・法人内での避難訓練、救命講習、不審者対応等、訓練には参加しており、定期的に行う。 ・事業所独自ではできていないため、取り組む必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・虐待防止研修への参加 ・会議でも共有するようになっている	・法人としてストレスチェックを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	・アレルギーには注意しておやつを提供している	・子どもにとって危険のある食材は使用しない。 ・アレルギーの把握をして、配慮している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・その都度記録するようになっている	・職員間でヒヤリハットに対する捉え方も差がある。 ・小さなことでも感じていることを引き継ぎの場でも出しあい、「ヒヤリハットに該当する」という意識をもつ。また、ヒヤリハットへの気づきを持つようにする。